

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：アスクあざみ野保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：伊藤 久美子	定員（利用人数）：60名 （利用人数：74名）
所在地：〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野2-8-13	
TEL：045-901-4834	ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/azamino/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社日本保育サービス	
職員数	常勤職員：13名 非常勤職員：15名
専門職員	園長 1名 保育士 15名
	看護師 1名 栄養士 1名
	保育補助 4名 事務員 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 2か所
	沐浴室 1か所 職員休憩室 1室
	調理室 1か所 事務室 1室
	相談室 1か所 図書室 1か所
	園庭 あり

③ 理念・基本方針

保育理念

「未来を生きる力を培う」

自分らしく、生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います。

保育方針

1人ひとりに心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細やかな保育を行うことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための、“生涯にわたる生きる力の基礎”を育みます。

・自ら伸びようとする力を支えます。

こどもが本来持っている”育つ力”に注目し、周囲の環境に興味・関心を持って自ら関わろうとする意欲を支え、自信を育みます。

・五感を養って感性を豊かにします。

身近なものに関わり、五感を使った実体験を積み重ねることで、豊かな感性を高め、思考力・想像力を育みます。

・後伸びする力を育みます

こどものありのままの姿を受け止め、共感し接することで、探求しやり抜く力、感情をコントロールする力、人と関わる力を育みます。

④施設・事業所の特徴的な取組

園では、こども達の「生きる力」「伸びる力」を育むことを目的に、それぞれの年齢・発達に合わせた多様な保育プログラムを実施しています。全てのプログラムは、こどもたちへの教育ではなく、“楽しむ心”や“学ぶ楽しさ”を育むプログラムとなっています。

①えいごプログラム

楽しい歌や本を通じて英語に親しむ時間——。

②たいそうプログラム

運動あそびを通して生きる力を育みます。当社のたいそうは、あそびを中心とした活動に重点を置いています。

③リトミックプログラム

リトミックとは、音楽を身体全体でのびのびと表現しながら「体験」「経験」する中で、集中力、想像力、協調性、創造性などの人間力を育む音楽教育です。

④もじ・かずランド

こどもたちが就学時に自信をもって学習に取り組めるよう、幼児期から学習に対する非認知能力（興味や意欲、集中力など）を育みます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年8月1日（契約日）～ 令和5年4月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	4回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもが食に興味を持ち、楽しく食事できるよう工夫しています

毎月、クッキング保育を実施しています。栄養士は雛祭りや鬼の顔のカレーなど、季節にちなんだメニューを検討しています。保育士は、クッキング保育に先立ち、関連する絵本を読んで子どもが興味を持つよう取り組んでいます。料理が完成すると絵本の表紙のコピーに料理の写真を貼って調理室の前に掲示しています。また、ベジトラグ（家庭菜園プランター）を活用し、なす、トマト、きゅうりなどの野菜を栽培しています。子どもたちは、野菜を収穫する際に、触感や匂いを嗅ぐなど野菜に触れ、その後野菜が形を変えて様々な料理になることを経験しています。

2)安全を確保しつつ、子どもが自主的に活動できる環境を設定しています

広いスペースを利用して段ボールや牛乳パックで可動式のコーナーを作り、子どもが自主的に遊べる環境を作っています。表現活動では、設定された制作の他、自由画など個性が発揮できるものを取り入れています。定期的に外部講師が園を訪れ、ピアノの音にあわせて、進む、止まる、四つ這い、転がるなど身体を動かす運動をしています。子どもの発育に合わせて運動の内容を変え、様々な動きを取り入れることで関節の可動域が広がるなどの効果が出ています。動的な遊びをした後に椅子に座ってパズルをするなど静的な活動を入れ、静と動のバランスを考慮しています。

3)理念の実現に向けた中・長期ビジョンの策定が期待されます

園は、法人ビジョンに同義としていますが、園の長期ビジョンとして2020年に策定した2024年までの5年ビジョンがあります。ビジョン策定時に各年度ごと2項目を挙げ、実施結果や反省を記載しています。但し、年度のビジョン2項目は策定以来固定されていて、園事業全体の目標達成とするビジョンに繋がりません。今後は、年度ごとの評価や社会情勢なども鑑みながら中長期ビジョンの見直しを行い、確実に理念に到達する中・長期ビジョンの策定が望まれます。

4) 有事における初動対応への検討が望まれます

今年度は、園長の休職に伴い、変則的な職員体制で保育が進められています。新しく他園から着任した園長代理を中心に保育業務を行っています。園長代理の職権内での運営であり、従来通りの園業務が円滑に進まない現況です。法人の現状報告・対応説明がない園環境のもとで、職員は日々、子どもたちの安心・安全な保育支援に努めています。園長不在とする法人のバックアップ体制や現状の説明不足は、決して安定した園環境とは言えません。今後は、園長不在など、有事における初動対応の刷新が望まれます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、第三者評価を受けさせていただき、運営や保育内容を振り返る良い機会となりました。

今回の受審をきっかけにして、見直しが必要なところは改善し、さらに職員間の連携を深め、定期的に自己評価を行いながら、子ども一人ひとりの育ちをしっかりと支え、健やかな育ちにつながる保育を展開していきたいと思えます。

保護者の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。いただいたご意見、課題となった点につきましては、職員間で共有し、今後の園運営に活かしてまいりたいと思えます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり